

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名

唐津市立相知中学校

達成度（評価）

A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・不登校対応、教育相談、特別支援教育の領域では環境整備、職員の組織的な対応、他機関との連携など様々な手立てを行った。「困ったときに先生たちに相談することができる」と回答した生徒の割合が昨年より1%増加し、80%であった。信頼関係を紡ぐかかわりを粘り強く行っていることが生徒に伝わっていると考えられる。 ・次年度の展望として、学力向上へ向けて、その基礎となる学習集団作りのために人権・同和教育の充実を図る。職員、生徒の人権意識を高め、共感的理解をもって互いを尊重し合う風土を醸成し、学校生活の充実感、保護者の学校教育への安心感を向上させたい。				
2 学校教育目標	しなやかに生きる力を身に付けた生徒の育成 ～自分らしく・あなたらしく～				
3 本年度の重点目標	① いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育を推進する。（すべての教育活動の根幹への位置づけ） ② 学習評価を指導に生かし、生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善を行う。 ③ 自ら生き方をデザインする態度を養うため、学校生活における問題解決に自主的・実践的に取組むよう支援する。（キャリア教育の視点）				
4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価	
(1)共通評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○校内研究を踏まえた授業改善	○校内研究を踏まえた学習集団作りと授業改善に取り組んだ教員が90%以上	・講師招聘による職員研修を実施し、学力向上の基礎となる学習集団作りと授業改善に生かす。 ・職員が授業を参観し合い、学力向上の基礎となる学習集団について意見交換を行う。	A	・講師を招聘し、「授業改善」と「仲間づくり」について職員研修を実施した。 ・単元構成を意識した授業づくりについて、意見交換を含む職員研修を実施した。 ・校内研究を踏まえた学習集団づくりと授業改善に取り組んだ教員は100%であった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を成長させるために役立っていると感じている生徒が90%以上	・特別の教科道徳の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・人権学習や部落問題学習の授業を家庭・地域や他校に公開する。	A	・学年集団で協力して道徳の授業づくりを行い、学年職員全員で授業に取り組んだ。 ・人権学習や部落問題学習に関する授業づくりの職員研修・授業参観を実施し、地域や他校の参観者もあった。 ・特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を成長させるために役立っていると感じている生徒は96%であった。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答する教員が100%。	・年度当初にいじめの認知・覚知について共通認識を図る場を設ける。 ・生徒指導主事を中心に情報共有し、対応の協議を迅速に行う。	A	・年度当初の生徒指導協議会で、いじめの認知・覚知について全職員で確認した。 ・アンケートや教育相談、また、日常の会話や観察を通して情報共有し、いじめやトラブルの早期発見と迅速な対応につなげた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答する教員は100%であった。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒それぞれの立場での前向きな意思を認め、リーダーシップとフォロワーシップを両立した集団づくりを図る。 ・校則の見直しや自らの生活習慣・学習習慣に関心をもたせ、学校生活における問題解決に自主的・実践的に取組むよう支援する。	A	・生徒会活動や学校行事において、生徒が参画する機会をつくり、生徒主体の活動を経験させることができた。 ・アンケートや振り返りを通して、自分や集団の良さと課題を自覚させ、前向きな改善に取り組ませることができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は91%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒は84%であった。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○時間の使い方を改善している生徒80%以上	・家庭での時間の使い方に留まらず、学校生活においてもタイムマネジメントを意図した指導を継続する。	A	・一人一台端末を活用して、長期休業中や週休日・祝日の課題に取り組ませた。日々の振り返りや課題のやり取りの効率化が図られ、家庭での過ごし方を把握することにも有効であった。 ・時間の使い方を改善している生徒は93%であった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・年次休暇取得の推奨	B	・学校閉庁日は4日間設定できた。年次休暇の取得は増加傾向にあるが、まだ不十分である。 ・部活動休養日は、各部活動で定着しているが、定時退勤日については、努力が必要である。 ・時間外勤務45時間を超えないように業務遂行・時間管理を遂行できた職員は56%であった。
●特別支援教育の充実	○生徒、保護者のニーズに応じた教育活動の展開	○特別支援学級の生徒、保護者の学校教育に対する満足度80%以上	・特別支援教育コーディネーターを中心に、全職員で適切な教育環境をつくる。 ・教職員、保護者の情報共有を密にしながら、生徒の個に応じた成長を促す。	A	・校内支援委員会で情報共有し、個に応じた支援について協議を重ねた。落ち着いて生活できるよう、教室配置を改善した。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員間や保護者、関係機関との情報共有を密に行うことができた。 ・特別支援学級における満足度は、生徒が86%、保護者が100%であった。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
重点取組			最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果
◎志を高める教育	○SDGs～持続可能な開発目標～を意識した教育活動の展開	○「持続可能な社会を創るための取組について考え行動している」生徒80%以上	・総合的な学習で、SDGsの視点から日常生活を見直した実践を行う。	A	・生徒会活動では、SDGsを意図した校内の取組にとどまらず、地域に出向いた活動にも取り組んだ。 ・総合的な学習の時間では、各学年で工夫して、SDGsの意識向上を図る取組を進めることができた。 ・「持続可能な社会を創るための取組について考え行動している」生徒は86%であった。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・人権・同和教育の充実を図り、職員・生徒の人権意識を高め、共感的理解をもって互いを尊重し合う風土を醸成したことで、学力向上の基礎となる学習集団としての成長が見られ、学校生活の充実感、保護者の学校教育への安心感を向上させることができた。 ・ラーニングマウンテンを取り入れ、授業の繋がりを意識した単元づくりを進めることができた。生徒は、見通しをもって学習に取り組み、単元の振り返りにもラーニングマウンテンを活用し、学習の成果や課題を自覚しながら次の学習に繋げることができた。 ・未来の自分をイメージし、日々の学校生活や様々な体験活動の中から今の自分に必要なで課題を見つけ、自主的・実践的な解決に取り組もうとする生徒が増えている。「将来の夢や、やってみたい仕事について考えている」のアンケートに肯定的な回答率が昨年度より高かった。 ・人権・同和教育の充実とともに、不登校対応、教育相談、特別支援教育に関する環境整備にも重点を置き、安定した学級集団づくりを目指しながら「個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）」を推進し、学力の向上に繋げていきたい。
--------------------	--